

1. はじめに

当社は、福島第一原子力発電所の事故を決して忘れることなく、このような事故を絶対に起こしてはならないという強い決意のもと、安全を最優先し、世界トップレベルの安全性を有する原子燃料サイクル施設をつくりあげていくための取り組みを、全社一丸となって進めています。

福島第一原子力発電所の事故の教訓を反映して定められた“新規制基準（2013年12月施行）”を踏まえ、再処理工場ではこれまでの想定より厳しい地震、竜巻等の災害が発生するような場合であっても、必要な安全機能を確保出来るよう対策を強化しています。また、安全設計で講じた対策が何らかの要因で機能しない事態になった場合に備え、周辺に放射性物質が放出されるような重大事故への対策も準備しています。（詳細は当社作成資料「再処理工場の安全確保への取り組み」をご参照ください）

一方、再処理工場は、原子力発電所に比べ多くの機器や設備から構成されている化学工場であることや長期稼働停止後の工程立ち上げであることを踏まえると、重大事故のような深刻な事故ではない軽微なトラブルが発生しうるものと考えています。

本書では、発生が想定される軽微なトラブルについて、あらかじめ整理した上で、発生した場合にどのように備えるか一件一葉でとりまとめました。

加えて、再処理工場ではこれまでに法令報告や保安規定違反など運営に大きな影響を与えた設備トラブルを経験しております。これら事例についても再び発生することのないよう、事例としてとりまとめました。

当社では、地域の皆さまのご安心につながるよう、住民説明会、訪問活動、視察会・勉強会等の機会を通じて、本資料をご説明するとともに、社員やグループ会社、協力会社への教育に活用してまいります。

これからも、当社は安全確保に向け、たゆまず努力してまいります。

2020年11月